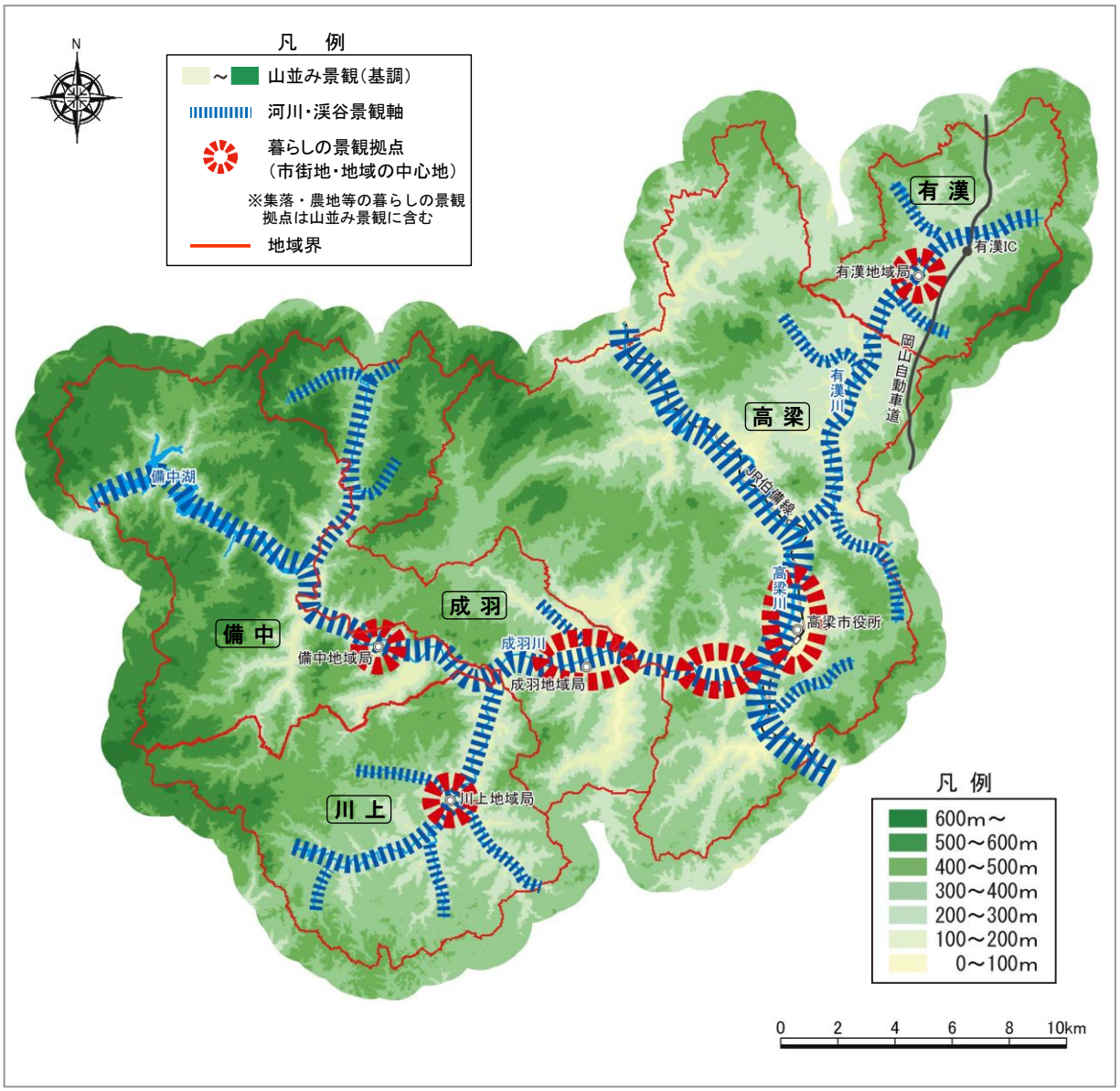
１．景観構成

本市の景観を概観すると、なだらかな吉備高原の「山並み景観」を基調に、山地に深い谷を刻みながら流れる高梁川や成羽川、有漢川などの連続性のある「河川・渓谷景観軸」、河川沿いや高原上の平地などに古くから人々が暮らしてきた市街地や地域の中心地、集落などのまとまりのある「暮らしの景観拠点」に大きく捉えることができます。

こうした景観は、「高梁」、「有漢」、「成羽」、「川上」、「備中」の各地域において、地域固有の自然、歴史・文化、人々の暮らしなどの様々な要素が重なりあって地域性豊かな景観が形成されています。

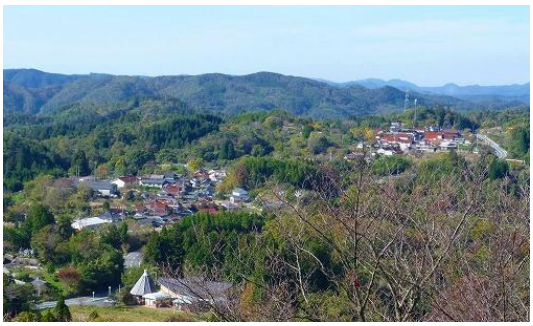


景観構成の概念図

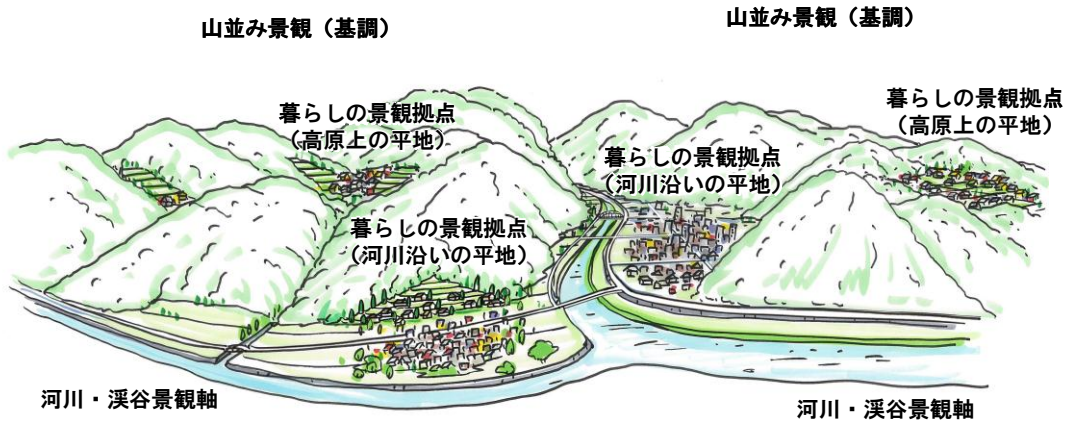
なだらかな吉備高原の「山並み景観」

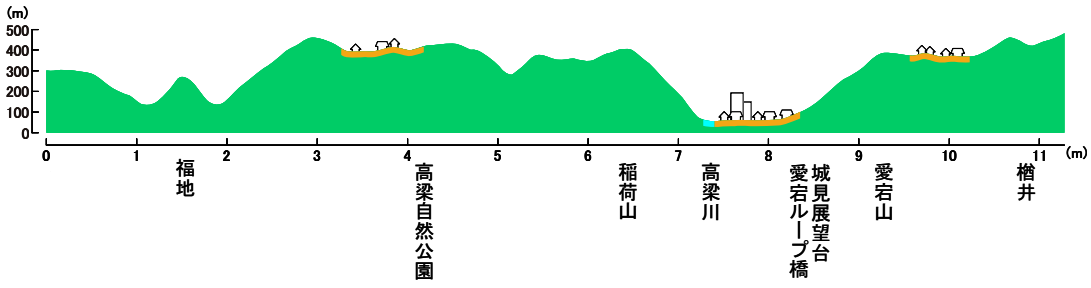
高梁川や成羽川などの「河川・渓谷景観軸」

河川沿いの平地に発達した市街地の「暮らしの景観拠点」



高原上の平地に発達した集落の「暮らしの景観拠点」





景観構成のイメージ

２．景観特性を把握する視点

本市全域の景観は、「山並み景観」「河川・渓谷景観軸」「暮らしの景観拠点」から大きく構成されますが、景観は目に見える要素だけではなく、地域の自然や気候、歴史や文化、人々の暮らしや経済活動など、さまざまな要素と背景が重なり合って見えてくるものです。

本計画では市全域及び各地域の景観特性を次の３つの視点から把握した上で、景観まちづくりの基本目標や基本方針などを定めます。

自然の景観
- 山々や川の流れなどの自然が織りなす季節感あふれる景観

歴史・文化の景観
- 城下町や陣屋町などの歴史を感じさせる町並みの景観
- 地域の歴史を感じさせる神社仏閣の景観
- 松山踊りや備中神楽、渡り拍子に代表される民俗芸能や伝統行事の景観
- 往来（おうらい）と舟運（しゅううん）の面影を残す歴史的な景観

暮らしの景観
- 日々の暮らしと生業（なりわい）の場を映し出す景観
- 祭りなどのにぎわいのある景観
- 公園や広場、道路などの公共の場の景観
- 里山や農地、農村などの景観

3．景観特性

市民アンケートやワークショップなどの意見を踏まえ、本市を代表する「自然の景観」「歴史・文化の景観」「暮らしの景観」を示します。

3―1．自然の景観

■ 吉備高原の景観

吉備高原は、緑豊かな景観を形成しています。独立峰として地域のシンボルである天神山（777.6m）、弥高山（653.6m）、大平山（698.1m）、権現山（599.6m）、臥牛山（478.2m）などは、吉備高原を見渡す眺望地となっています。

大平山から見る吉備高原

■ 市街地を囲む山並みの景観

市街地は山々に囲まれており、緑の稜線は人々に潤いを与えています。

臥牛山をはじめ頼久寺庭園の借景となる愛宕山などは、市街地から見る山並み景観の重要な構成要素となっています。

市街地と臥牛山

■ 河川の景観

高梁川とその支流の成羽川、有漢川は、山並みに囲まれた農山村や市街地を流れています。周囲の山々と織りなす河川の美しい景観は、高梁川上流県立自然公園に指定され、鉄道や国道から眺望することができる本市の特徴的な景観となっています。

高梁川

■ 急峻な渓谷の景観

成羽地域、川上地域、備中地域の成羽川流域には、石灰岩質のカルスト地形が見られます。磐窟谷、羽山渓は、長い歳月をかけて石灰岩が浸食されてできたもので、岩壁がそびえ立つ急峻な渓谷の景観が見られます。

羽山渓

■ 季節感あふれる自然の景観

本市は寒暖差が大きい内陸的な気候から、四季折々の特徴ある自然景観が見られます。春は山桜やツツジが山に彩りを添え、夏は川のせせらぎが輝き、夜にはホタルが飛び交う清流の景観が見られます。秋は山々が紅葉し、冬の晴れた日は雄大な雲海を目にすることができます。

秋の磐窟谷

3―2．歴史・文化の景観

■ 城下町の景観

臥牛山にそびえる備中松山城天守、石火矢町の武家屋敷、本町・下町・南町と続く町家、紺屋川（こうやがわ）美観地区、東の山裾に並ぶ神社仏閣などに、城下町の歴史を感じさせる景観が形成されています。

石火矢町の武家屋敷

■ 銅山とベンガラで栄えた吹屋の景観

吹屋地区は、旧道に面して赤褐色の石州瓦（せきしゅうがわら）とベンガラ格子、土壁に特徴のある町並み景観を形成しています。

昭和 52 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、周辺地域を含めた町並み景観の保存が行われています。

吹屋の町並み

■ 神社仏閣、備中神楽と渡り拍子の景観

古くから人々の信仰の対象となってきた神社仏閣は、地域の歴史的景観を形成しています。また、神社の祭事には備中神楽や渡り拍子が奉納され、数百年の歴史と伝統が継承されている歴史・文化的な景観を形成しています。

地域の歴史を感じる神社

■ 松山踊りの景観

松山踊りは、慶安元年（1648）に、備中松山藩主水谷勝隆（みずのやかつたか）が五穀豊穣（ごこくほうじょう）と町家繁栄を祈って八幡神社の秋祭りで踊らせたことが始まりとされています。お盆の３日間、備中高梁駅前大通りは、浴衣姿に網笠をかぶる踊り手の大きな輪で埋め尽くされ、本市の夏の風情として大切な景観となっています。

松山踊り

■ 往来と舟運の面影を残す歴史的な景観

松山往来、新見（にいみ）往来、吹屋往来などの旧道には道標や常夜灯（じょうやとう）、古い町並みが残り、歴史的な景観を形成しています。また、高梁川や成羽川は、かつて高瀬舟による舟運が盛んに行われ、川に沿って残る河岸（かし）問屋の蔵や常夜灯、金毘羅宮、猿尾などに往時の面影が残されています。

常夜灯

3―3．暮らしの景観

■ 備中高梁駅周辺の景観

備中高梁駅は、通勤・通学者をはじめ多くの来訪者が利用する本市の玄関口となっています。駅から見る周囲の山々は、来訪者に「山に囲まれた城下町高梁」を印象づけています。駅前広場からは駅前大通りが一直線に延び、電線類が地中化されすっきりとした道路景観となっています。

備中高梁駅周辺

■ 市街地の景観

市街地はかつての城下町から落合町阿部などへ広がり、低層の建物を主体とし、備中高梁駅周辺では中高層化が進んでいます。また、中原町、落合町阿部の幹線道路沿道では、大型商業施設などの店舗がにぎわいのある景観を形成しています

大型商業施設

■ 祭りやイベントの景観

「町家通りの雛まつり」、「風ぐるまフェスタ」、「なりわ祭り」、「吹屋ベンガラ灯り」、「マンガ絵ぶたまつり」、「備中ふるさとまつり」など、地域の活性化や交流をめざした祭り・イベントが開催され、にぎわいを創出しています。

「町家通りの雛まつり」のにぎわい

■ 道路や鉄道の景観

国道 484 号愛宕ループ橋は、山の斜面に円を描き、山並みと市街地、高梁川を眺望することができます。道路や鉄道は、連続する人工構造物として景観を構成し、山並みや川の流れ、田畑や町並みの移り変わる風景を見る視点場にもなっています。

国道 484 号愛宕ループ橋

■ 農山村の景観

吉備高原には棚田が見られ、平坦地や斜面の畑では野菜（トマトなど）、果樹（ピオーネなど）、花卉（シャクヤクなど）を栽培する農山村の景観が見られます。近年、休耕地を利用して菜の花、ひまわり、コスモスを植える取り組みが行われています。

休耕地の菜の花の植え付け